

2. 各自治体への移管遺物に関わる遺跡概要と目録

関西学院大学考古学研究会

・西宮市（表1）

○関西学院構内古墳

6、7世紀の古墳時代後期に造られた。西宮市指定文化財。横穴式石室の円墳で石材は仁川溪谷の花崗岩で、石室はもち送りの技法が使われている。武藤誠氏による1935年と1959年の2回の調査で金環など装飾品、武具、馬具、須恵器などが発掘された。また、1969年の関学考古研による調査でも土器片が見つかった。

- ・武藤誠 1980『母校通信』第64号
- ・長尾文雄 1991.1「古墳」『関西学院広報』第143号
- ・関西学院大学考古学研究会 1975『関西学院考古』第2号
- ・関西学院大学考古学研究会 1976『関西学院考古』第3号

○青石古墳

7世紀に造られた円墳。直径約13mで、内部は横穴式石室が築かれており石室は全長7.16m、幅1.4mを、中央部分の幅が広い胴張りである。谷地形の奥、南西に傾斜する山地斜面で標高約250mに位置する。1967年3月に関学考古研が行った発掘調査で須恵器や土師器、鉄釘が出土した。

- ・青石古墳 (nishinomiya-yamaguchi.jp) (2022年1月24日閲覧)
- ・西宮市教育委員会 1974『青石古墳発掘調査報告書』文化財資料第8号

○仁川五ヶ山

弥生時代中期後半の高地性集落の遺跡。1958年に武藤誠氏が、1970年・1973年に関学考古研が調査した計3回の調査により、遺構は住居跡7基、溝状遺構1基、遺物は甕形土器、壺形土器、無頸壺形土器、高杯形土器、器台形土器、土器の底部などが出土している。また、1969年に弥生土器、1996年に石棺材も出土している。

- ・西宮市教育委員会 1975『仁川五ヶ山弥生遺跡－No.4地点の調査報告－』西宮市文化財資料第14号
- ・西宮市教育委員会 1976『仁川五ヶ山弥生遺跡－No.5地点の調査記録－』西宮市文化財資料第16号

○甲風園

西宮市甲風園1丁目に位置する弥生時代前期の遺跡。発見の過程について詳細は不明であるが、1966年8月に、増田氏敷地内から弥生時代前期・中期の甕の口縁部、壺口縁部、壺の底部、甕底部などの細片が十数点出土している。これらの出土物は考古学研究会に移管された。

- ・折井千枝子・坂井秀弥 1978「西宮市甲風園採集の弥生式土器」『関西学院考古』第4号、関西学院大学考古学研究会

表 1 西宮市の移管遺物目録

コンテナ NO	遺跡名	地点・地区	年月日	内容	備考
KG001	園学構内古墳			人骨、歯、鉄片	
KG002	園学構内古墳		19590226	鉄片、銅銭、須恵器片、土師器片	
KG002	園学構内古墳		19690714	土器片	
KG003	青石古墳			鉄製品、土器片	
KG004	甲陽園東山町大車町		19681117	弥生土器	西宮市分布調査
KG004	仁川五ヶ山		19690719	弥生片	西宮市分布調査
KG004	不明		19681027	土師片、弥生片	西宮市分布調査
KG004	吉楽園二番町		19681020	土器片	西宮市分布調査
KG004	山口名来		19681225	須恵器片	西宮市分布調査
KG004	門戸使町		19681124	須恵器片	西宮市分布調査
KG004	水田中 公智橋北		19681226	須恵器片	西宮市分布調査
KG004	名来 水田中		19641223	須恵器片	西宮市分布調査
KG004	山口町上山口		19681225	須恵器片	西宮市分布調査
KG004	名来 西正寺ウラ		19681226	須恵器片	西宮市分布調査
KG005	甲風園遺跡	甲風園 1 丁目		弥生片	増田氏方出土資料。R-1、R-2
KG006	獅子ヶ口遺跡（伝）			須恵器片	R3 ～ 9
KG007	六軒町遺跡			弥生土器片	表探
KG007	仁川五ヶ山			弥生土器片、石器	表探、★美濃遺物の可能性
KG007	出土地不明			土器口縁（復元）	
KG007	家島群島大丸		0000726		「7/26 大山 石オノ B 地区第 3 層 No13」石オ 1 ?
KG008	仁川五ヶ山			石製品、木炭、鉄片、高环、須恵器	
KG008	仁川五ヶ山	B	19580707	弥生土器	
KG008	仁川五ヶ山	2 号 B 地区	19580707	鉄片	
KG008	仁川五ヶ山		19701029	鉄片	★発見？
KG008	仁川五ヶ山	玄室入口			
KG008	仁川五ヶ山			弥生片、埴輪片？	
KG008	仁川五ヶ山		00000818		表探
KG008	仁川五ヶ山		00000820		埴輪土層
KG008	仁川五ヶ山	二号構内 小孔			
KG008	仁川五ヶ山	五ヶ山 B			
KG008	仁川五ヶ山			弥生片	
KG008	仁川五ヶ山		00000822	石製品	弥生
KG008	仁川五ヶ山	五ヶ山	19961219	石棺材	
KG008	仁川五ヶ山	五ヶ山		木炭	
KG008	仁川五ヶ山	No.B1			
KG008	仁川五ヶ山	たら穴		鉄片	
KG008	仁川五ヶ山	4 号	19580707	鉄器	
KG008	仁川五ヶ山			土師片？弥生片？	褐色層、C-1
KG008	仁川五ヶ山	No. 6 二号構内 小孔	19701029		
KG008	仁川五ヶ山		330707		表探
KG008	仁川五ヶ山		00000818	弥生高环脚部	
KG008	仁川五ヶ山	五ヶ山		粘土状塊	
KG008	仁川五ヶ山	五ヶ山 e		高环脚部、ツボ底部	
KG008	仁川五ヶ山			鉄製品	石棺のコンテナより出土
KG008	仁川五ヶ山	五ヶ山 B		弥生 須恵器片	
KG009	五ヶ山	B1		弥生片	
KG009	五ヶ山	B3		弥生片	
KG009	五ヶ山	B4		弥生片	
KG009	五ヶ山	C1		弥生片	
KG010	五ヶ山	A		弥生片	
KG010	五ヶ山	C		弥生片	
KG010	五ヶ山	e		弥生片	
KG010	五ヶ山	F 3 トレ		弥生片	
KG010	五ヶ山	NG D2		弥生片	
KG010	五ヶ山			ガラス玉	
KG010	出土地不明			須恵器片	コンテナ NO「栗山」

KG015	五ヶ山C	A1 口群	19580706			
KG016	仁川五ヶ山	A1 トレンチ	19701020、19701028 ～ 19701108		弥生土器片	
KG016	仁川五ヶ山	A2 トレンチ	19701028		弥生土器片	
KG017	仁川五ヶ山	A3 トレンチ	19701020 ～ 19701031		弥生土器片	
KG018	仁川五ヶ山	B トレンチ	19701021、19701020		弥生土器片	
KG018	仁川五ヶ山	BE トレンチ	19701028、19701102、19701104		弥生土器片	
KG018	仁川五ヶ山	B-W トレンチ	19701021 ～ 19701104		弥生土器片	
KG019	仁川五ヶ山	C1 トレンチ	19701029 ～ 19701108		弥生土器片	
KG020	仁川五ヶ山	C3 トレンチ	19701029 ～ 19701030		弥生土器片	
KG020	仁川五ヶ山	C-E	19701021		弥生土器片	
KG020	仁川五ヶ山	C-BH	19701031		弥生土器片	
KG020	仁川五ヶ山	C-W	19701003 ～ 19701030		弥生土器片	
KG020	仁川五ヶ山	C-WH	19701029、19701101		弥生土器片	
KG021	仁川五ヶ山	D トレンチ	19701021		弥生土器片	
KG021	仁川五ヶ山	E1 トレンチ	19701025 ～ 19701027		弥生土器片	
KG021	仁川五ヶ山	E2 トレンチ	19701023 ～ 19701030		弥生土器片	
KG021	仁川五ヶ山	E3 トレンチ	19701022 ～ 19701030		弥生土器片	
KG022	仁川五ヶ山	F トレンチ	19701024 ～ 19701103		弥生土器片	
KG023	仁川五ヶ山	Y トレンチ	19701125、19701128		弥生土器片	
KG024	仁川五ヶ山	Z トレンチ	19701123 ～ 19701124		弥生土器片	
KG024	仁川五ヶ山	Gw トレンチ	19701104		弥生土器片	
KG025	仁川五ヶ山	Z トレンチ	19701122 ～ 19701124		弥生土器片	
KG026	仁川五ヶ山	S トレンチ	19701102 ～ 19701122		弥生土器片	
KG026	仁川五ヶ山	S2 トレンチ	19701103		弥生土器片	
KG027	仁川五ヶ山	東断面			弥生土器片	口縁部完形。「仁川小カ」
KG027	仁川五ヶ山		19701022 ～ 19701027		弥生土器片	
KG028	仁川五ヶ山		19701024-19701104		弥生土器片	仁川五ヶ山の色々なトレンチが混同して同じ袋に入っている
KG029	出土地不明				弥生土器片	判別不能 10 点。当初のダンボール記載「NG1 ～ 133S 五ヶ山」
KG030	仁川五ヶ山				弥生土器片	不明
KG030	仁川五ヶ山	E1			弥生土器片	
KG030	仁川五ヶ山	E2			弥生土器片	
KG030	仁川五ヶ山	E3			弥生土器片	
KG030	仁川五ヶ山		19670324		弥生土器片	
KG030	仁川五ヶ山				弥生土器片	
KG031	出土地不明				弥生土器片	判別不能
KG032	仁川五ヶ山				須恵器片、鉄製品、土師器片、土製品	
KG033	仁川五ヶ山				須恵器片、弥生土器片、石、埴輪片	
KG034	出土地不明、仁川五ヶ山				須恵器片、弥生土器片	注記無し
KG035	仁川五ヶ山	石室内堆積土層、仁川五ヶ山 1 号墳東方丘陵	00000828		須恵器片、弥生土器片、土師器片	
KG036	出土地不明				須恵器片、弥生土器片、古代瓦（軒丸瓦）	
KG037	仁川五ヶ山		19701122		弥生土器片、石器	
KG038	仁川五ヶ山		19700000		弥生土器片、鉄片、石製品	「70 年調査」

・姫路市（表2）

○大山遺跡

男鹿島の西北に位置し標高 200m にある遺跡。数カ所で弥生時代の壺棺が発見されている生活遺跡である。1953 年 7 月 22 日石野博信氏らが発掘調査を行っている。

・家島群島総合学術調査団 1962『家島群島』神戸新聞社

○チンカンドー古墳

石棺を伴う横穴式古墳の廃址。横穴式石室で天井石を失っている。玄室で蓋の長さ 150 センチ、幅 76 センチ、高さ 26 センチの龍山石製のくり貫き式家形石棺 1 基が発見された。1959 年 7 月 19 ～ 22 日に武藤誠氏らが発掘調査を行った。床下 30 センチから須恵器（7 世紀）や土師器が発掘された。

・姫路市チンカンドー古墳 (<https://www.city.himeji.lg.jp/kanko/0000001974.html>) (2022 年 1 月 24 日閲覧)

・神戸新聞社会部 1961『祖先のあしあと』IV神戸新聞社

・家島群島総合学術調査団 1962『家島群島』神戸新聞社

○ヒシノタイ古墳

男鹿島のヒシの浜タイに残る横穴式石室古墳。古墳や土器の形式から古墳時代後期のものと推測される。1959 年に武藤誠氏らがチンカンドー、大山神社遺跡とともに発掘調査を行った。家島群島全域において横穴式石室の旧態を残している唯一の遺構である。

・神戸新聞社会部 1961『祖先のあしあと』IV神戸新聞社

・家島群島総合学術調査団 1962『家島群島』神戸新聞社

○真浦遺跡

家島港の北の一角の浜にある遺跡。2 種の師楽式土器・土師器・須恵器・土錘が見つまっている。

・家島群島総合学術調査団 1962『家島群島』神戸新聞社

○山崎山古墳 1号墳

市立姫路高等学校敷地の北側、八丈岩山の麓に造られた横穴式石室墳群で 7 基あるうちの 1 つ。1 号墳からは鉄刀、鉄鏃、馬具類、首飾り、釧などが発見された。関学考古研の遺物より、1964 年の 8 月 19 日から 21 日まで調査が行われていることがわかった。

・姫路市山崎山古墳出土遺物 (<https://www.city.himeji.lg.jp/kanko/0000001998.html>) (2022 年 1 月 24 日閲覧)

・松本正信 2010「山崎山古墳群」『姫路市史』第 7 巻下 考古資料編 姫路市

表 2 姫路市の移管遺物目録

姫路市コンテナ番号	遺跡名	年月日	内容	備考
1	大山遺跡	—	土器	「家島群島」掲載遺物
2	大山遺跡、チンカンドー古墳	—	石製品、石器（石包丁）	「家島群島」掲載遺物
3	ヒシノタイ古墳	—	土器	「家島群島」掲載遺物
4	チンカンドー古墳	—	土器	
5	大山遺跡	—	土器	
6	大山遺跡、真浦遺跡	—	土器、石製品	
7	大山遺跡	—	土器、石製品	
8	ヒシノタイ古墳、出土地不明	—	土器、石器	
9	山崎山古墳（1号墳）、出土地不明	1964年8月19日～21日	須恵器（高坏）	
—	チンカンドー古墳	—	土器（土師器・須恵器）	「家島群島」掲載遺物
—	チンカンドー古墳	—	土器（土師器・須恵器）	「家島群島」掲載遺物
図面	大山遺跡、チンカンドー古墳	—	図面 50点	

・川西市（表 3）

○加茂遺跡

兵庫県の南東部、川西市の南部に位置する遺跡である。旧石器・縄文時代から弥生・古墳・奈良・平安時代まで継続する。なかでも弥生時代中期は近畿地方を代表する大規模集落となる。1915 年の遺跡発見以来多量の弥生土器・石器の散布地として著名となったが、発掘調査は 1952 年から 1954 年の関西大学と関西学院大学による合同調査に始まる。以後市教委による発掘調査で遺跡の実態が明らかになった。2000 年国史跡に指定される。

- ・末永雅夫 1968『摂津加茂』関西大学文学部考古学研究第 3 冊 関西大学
- ・川西市教育委員会 2000『史跡加茂遺跡』
- ・岡野慶隆 2006『日本の遺跡 8 加茂遺跡』同成社

○寺畑遺跡

石野博信氏が川西市在住時代に弥生土器を採集したという伝聞をもとに設定された遺跡である。長らく実態は不明であったが、今回の移管遺物中に 1960・61 年寺畑で採集された当該遺物が確認され、出土地点の特定（寺畑 1 丁目 56 番付近）と所属年代（弥生中・後期）を知ることができた。

- ・岡野慶隆 2018「川西市寺畑採集の土器」（兵庫考古研究会『ひょうご考古』第 13 号）

表3 川西市の移管遺物目録

川西市ネーミングNO	遺跡名	年月日	内容	備考
K-KG-1	加茂遺跡			おさわり土器使用（川西市）
K-KG-2	加茂遺跡		弥生土器片	
K-KG-3	加茂遺跡		弥生土器片	
K-KG-4	加茂遺跡		弥生土器片	
K-KG-5	加茂遺跡		弥生土器片	
K-KG-6	加茂遺跡		鉄器	
K-KG-7	加茂遺跡		土鏝	
K-KG-8	加茂遺跡		弥生土器片	
K-KG-9	加茂遺跡		石	
K-KG-10	加茂遺跡		弥生土器底部	
K-KG-11	加茂遺跡		須恵器片	
K-KG-12	加茂遺跡		弥生土器片	
K-KG-13	加茂遺跡	S34.10.6	須恵器片	現物とラベル不一致。実際は須恵器片
K-KG-14	加茂遺跡		土器片・木片	不明遺物。「勅使D」と書かれた須恵器片あり。
K-KG-101	加茂遺跡		石包丁	おさわり土器使用（川西市）※レキと思われる袋含む
K-KG-102	加茂遺跡		石鏝	石鏝・石鏝含む
K-KG-103	加茂遺跡	S34.10.6	石鏝	
K-KG-104	加茂遺跡	S34.10.6	石鏝	
K-KG-105	加茂遺跡	S34.10.6	石鏝	
K-KG-106	加茂遺跡	S34.10.6	石鏝	
K-KG-107	加茂遺跡	S34.10.6	石鏝	
K-KG-108	加茂遺跡	S34.10.6	石鏝	
K-KG-109	加茂遺跡	S34.10.6	石鏝	
K-KG-110	加茂遺跡	S34.10.6	石鏝	
K-KG-111	加茂遺跡	S34.10.6	石鏝	

・宝塚市（表 5）

○長尾山丘陵の古墳群

大阪平野西北部の山腹・山麓に数多くつくられた後期古墳群のうち、西摂平野北部に位置する古墳群を指す。『宝塚の埋蔵文化財』（1970）時点で、長尾山古墳群の構成は、消滅墳を含め総数 151 基であり、2 単独墳と 8 支群分けられた。1970 年、1980 年、1991 年の計 3 回名称変更がなされている（表 4）。

・宝塚市教育委員会 1970『宝塚の埋蔵文化財』宝塚市文化財調査報告第 1 集

・宝塚市教育委員会 1975『宝塚市雲雀山古墳群―東尾根 A 支群・西尾根 B 支群の調査―』宝塚市文化財調査報告第 6 集

・宝塚市教育委員会 1980『長尾山の古墳群調査集報』宝塚市文化財調査報告第 14 集

・宝塚市教育委員会 1991『雲雀山西尾根古墳群 発掘調査報告書―B 支群の調査―』宝塚市文化財調査報告第 26 集

○雲雀山西尾根古墳群

兵庫県宝塚市平井に所在する古墳群であり、北から順に A・B・C の各支群に分けられる。A 支群は市街化調整区域にあり、C 支群は未調査のまま消滅したとされている。B 支群にある 1・2 号墳（2 基）は 1972 年に発掘調査され、1988 年に宝塚市教育委員会によって行われた発掘調査では、それらの古墳よりも西に位置する 6 基の古墳が調査された。この地域の古墳群は 6 世紀型と 7 世紀型の古墳が混在しており、古墳群の東南には 7 世紀頃の須恵器生産が行われた場所とされている平井古窯跡が所在している。

・宝塚市教育委員会 1991『雲雀山西尾根古墳群 発掘調査報告書―B 支群の調査―』宝塚市文化財調査報告第 26 集

○雲雀山東尾根古墳群

大阪平野の西北にあたる長尾山丘陵にある群集墳の一つである。A・B・C の 3 支群（A 支群は上下に分かれている）が同一尾根上の標高 50m ～ 150m に分布する。A 支群は上下 7 基ずつあり、いずれも 7 世紀型の古墳とされている。B 支群は 17 基の小型無袖式石室と 6 基の箱式石室からなる。C 支群は 6 世紀型古墳 8 基で構成されている。A 支群の上、B・C 支群は全て消滅している。

1959 年に石野博信氏らにより調査され、1972 年には宝塚市教育委員会が主体で調査された。

・宝塚市教育委員会 1975『宝塚市雲雀山古墳群―東尾根 A 支群・西尾根 B 支群の調査―』宝塚市文化財調査報告第 6 集

・宝塚市教育委員会 1980『長尾山の古墳群調査集報―雲雀山東尾根古墳群 C 支群 2 号墳・雲雀丘古墳

○雲雀ヶ丘古墳群

長尾山古墳群の最も東に位置し、A・B・C 南・C 北の 4 支群から構成される。A 支群は消滅し、B 支群は 1 基、C 北支群は 3 基、C 南支群は 2 基確認されている。特に C 南支群は 1954 年に武藤誠氏・村上行弘氏によって調査された。1958 年には関学考古研で雲雀ヶ丘古墳出土須恵器の復元を行なっている。

・宝塚市史編集専門委員 1977『宝塚市史』第 4 巻

○中筋山手古墳群・中筋山手東古墳群

長尾山古墳群のうち、最も西に位置する古墳群である。阪急山、稲荷神社、上中筋（庚申塚）の 3 支群を総括した名称である（表 4）。12 基で構成されており、そのうち天神川に面した尾根裾にある 4 基を中筋山手東支群と称される。武藤誠氏によって 1976 年には東支群 2 号墳、1978 年に 5 号墳が調査された。関学考古研では 1959 年には古墳群のパトロールを行なっており、また 1975～1977 年にかけては踏査及び古墳の測量調査を行なっている。

・宝塚市教育委員会 1980『長尾山の古墳群調査集報―雲雀山東尾根古墳群 C 支群 2 号墳・雲雀丘古墳群 B 支群 1 号墳・中筋山手古墳群 5 号墳一』宝塚市文化財調査報告第 14 集

・関西学院大学考古学研究会 1978『長尾山の古墳群(I)―中筋山手古墳群―』『関西学院考古』第 4 号

○勅使川 窯跡

現在の宝塚市中山台 1 丁目にあった須恵器の窯跡である。窯は勅使川の谷に面した丘陵の東向き斜面を利用して半地下式で造られている。7 世紀後半から 8 世紀の窯とされる。1960 年 5 月に石野博信氏らの踏査及び試掘で、土器片と小型銅鏡を採取されたことにより存在が推定されることとなった。その後 1966 年に兵庫県教育委員会及び宝塚市教育委員会が発掘調査を実施し、その後埋め戻された。

・宝塚市教育委員会 1970『宝塚の埋蔵文化財』宝塚市文化財調査報告第 1 集

・宝塚市史編集専門委員 1977『宝塚市史』第 4 巻

○安倉

神獸鏡が出土した安倉高塚古墳がある地域である。安倉地区土地区画整理事業に伴う遺跡範囲確認を 1972 年 11 月末日～1973 年 3 月末日まで実施し、武藤誠氏を団長、関学考古研が補助員にあたって調査した。その際には中世の遺物包含層と遺構を検出し、縄文時代の石鏃も出土した。

・宝塚市教育委員会 1973『安倉地区埋蔵文化財試掘調査報告書』

表 4 宝塚市遺跡名称変遷表

旧称	1970 年	1980 年	1991 年
長尾山古墳群	長尾山古墳群	長尾山の古墳群	長尾山丘陵の古墳群
阪急山	阪急山	中筋山手	中筋山手
稲荷神社	稲荷神社		
上中筋	庚申塚		中筋山手東
長尾山	平井	平井	平井
A 雲雀ヶ丘西	雲雀山西	雲雀山西尾根	雲雀山西尾根
B 平井			
C 雲雀ヶ丘学園グランド			
雲雀ヶ丘東	雲雀山東	雲雀山東尾根	雲雀山東尾根
A 雲雀ヶ丘ゴルフ場	雲雀ヶ丘	雲雀丘	雲雀丘
B 精常園			
C 雲雀ヶ丘			

- ・宝塚市教育委員会 1970 『宝塚の埋蔵文化財』 宝塚市文化財調査報告第 1 集
- ・宝塚市教育委員会 1980 『長尾山の古墳群調査集報―雲雀山東尾根古墳群 C 支群 2 号墳・雲雀丘古墳群 B 支群 1 号墳・中筋山手古墳群 5 号墳―』 宝塚市文化財調査報告第 14 集
- ・宝塚市教育委員会 1991 『雲雀山西尾根古墳群 発掘調査報告書―B 支群の調査―』 宝塚市文化財調査報告第 26 集

表5 宝塚市の移管遺物目録

宝塚市コンテナ番号	遺跡	年月日	内容	備考
KG 寄贈資料コンテナ 1	安倉	19721225 ~ 19730114	土器片、床土	
	平井窯跡	19590531、19850518(?)	土器片、窯壁片	土器注記「19850518 平井窯」疑義あり
	上中筋奥	19600508	土器片、炭化物	
	中山夫婦岩		土器片	
	五ヶ山	19701100	土器片	
	売布上配水地面尾根	19761120	土器片	「長尾山分布調査」
KG 寄贈資料コンテナ 2	長尾山	19591017	土器片	
	八州嶺古墳		埴輪片	持ち込み資料
	勅使川窯跡		土器片	
	勅使川窯跡		土器片	
	雲雀丘古墳群 37 号墳	19720730 ~ 19720829	土器片	
	雲雀山西根古墳群 B 支群		土器片	表採
KG 寄贈資料コンテナ 3	雲雀丘古墳群 37 号墳	19720809 ~ 19720829	土器片	
	雲雀丘古墳群 37 号墳	19720731	土器片	
	雲雀丘古墳群東 5 号墳	19720801 ~ 19720815	土器片	
	雲雀丘古墳群西 35 号墳		土器片	
	雲雀丘古墳群東 7 号墳		土器片	
	雲雀丘古墳群東 3 号墳	1972810	土器片	
KG 寄贈資料コンテナ 4	雲雀丘古墳群	19540203 ~ 19540204	鉄器片	
	出土地不明		土器片、埴輪片、鉄製品、石製品	
KG 寄贈資料コンテナ 5				
KG 寄贈資料コンテナ 6				

・神戸市（表6）

○舞子浜遺跡

垂水区の西側、瀬戸内海を望む場所に位置する。1960年、6月20日国道2号横の地下ケーブル施設工事現場で円筒埴輪棺が不時発見された。武藤誠氏と赤松啓介氏らが埴輪棺を確認した後、6月25日・26日の2日間発掘調査が行われ、2基の円筒埴輪棺が検出された。最初に発見された埴輪棺からは、人骨が良好な状態で見つっている。その後、舞子公園内では十数次にわたる発掘調査が行われ、これまでに19基の埴輪棺が見つっている。また、これらの埴輪は、五色塚古墳など同じ時期とみられる周辺の古墳出土埴輪と類似しており、同一工人によるものと指摘されている。

・兵庫県教育委員会 2005「舞子浜遺跡」『兵庫県文化財調査報告』279

・神戸新聞社会部 1961『祖先のあしあと』IV 神戸新聞社

～考古研調査経緯～

1960年6月21日に舞子から人骨が発掘された。武藤氏より連絡があり、翌日22日に見学をしに行き、1960年6月25日・26日に、発掘調査を行った。6月25日に、西宮北口に集まり、9:30から一基調査。15:00から16:00頃に人骨を棺から取り出した。25日の参加者は、武藤氏、熊野氏、橋爪氏、藤岡氏、石野氏、神戸大学生等であった。26日は、付近の人から連絡があったところの調査を行う。棺は大分壊れていた。11月2日文化祭にて舞子浜出土の埴輪円筒棺を復元させ、展示。

〈関西学院大学考古学研究会 S33～S36年の日誌より抜粋〉

(表6) 神戸市の移管遺物目録

関学コンテナ番号	遺跡名	年月日	内容	カード内容	備考
舞子2 C	舞子浜遺跡	19600620	円筒埴輪棺	舞子2c	
舞子2	舞子浜遺跡	19600626	円筒埴輪棺	舞子2、舞子2d	「6/26 B地区南」というカードあり
記載なし	舞子浜遺跡	19600620	円筒埴輪棺	出土地不明 A、舞子2c	別遺跡のものと思われるものあり
出土地不明 A	舞子浜遺跡	19600620	円筒埴輪棺	出土地不明、出土地不明 A	
舞子2 b	舞子浜遺跡	19600620	円筒埴輪棺	舞子2b、舞子2d	